

IV. クリケットの普及促進によるまちづくり

令和3年7月20日に、宮城県亶理町（以下「亶理町」）・日本クリケット協会・学校法人朴沢学園仙台大学（以下「仙台大学」）との間で、「クリケット競技によるまちづくりの推進に関する協定」を締結した。

クリケット競技を通じた特色あるまちづくりを推進することで交流人口の拡大や国際交流に寄与し、亶理町を東北最大のクリケット競技の拠点とすることを目指し、相互の連携を推進することを目的とした。

8月1日にグランドオープンした亶理町の鳥の海公園多目的広場を中心に、大会や合宿の開催だけでなく、地域住民が年齢、性別、能力に関係なく参加できるクリケットアクティビティを展開していく予定である。

なお、協定締結に向けては、同年7月に亶理町長を含む亶理町役場関係者15名及び本学職員5名による佐野市国際クリケット場視察を行った。佐野市国際クリケット場にて、日本クリケット協会の宮地事務局長、佐野市の観光スポーツ部長やスポーツ立市推進課長などから佐野市国際クリケット場の施設案内やクリケット競技についての紹介、サポーターを増やす取り組みなどについてご説明をいただいた。

また、8月1日の亶理町鳥の海公園多目的広場オープニングイベント後には東北で活躍するクリケットチームにより東北リーグの試合を開催し、試合後には町民対象のクリケット体験会を実施した。クリケット体験会は好評であり、11月14日には第2回目の体験会を行った。



（写真説明）

※左上 7月20日、連携協定締結式の様子（亶理町役場）

※右上/左下/右下 8月1日、鳥の海多目的広場のオープニングセレモニー及び記念試合の様子

○「クリケット競技によるまちづくりの推進に関する協定」協定趣旨

◆亘理町

亘理町は、世界への文化発信をテーマとする WATARI TRIPLE “C” PROJECT を今年度から始動しており、併せて東日本大震災の復興事業で整備し 8 月 1 日にグラウンドオープンする鳥の海多目的広場を日本クリケット協会並びに仙台大学と相互に緊密な連携を図りながらクリケット競技の東北の拠点として位置付けることで、交流人口の拡大や国際交流につながる事業を展開します。

そして、クリケット競技をとおして県内の沿岸エリアとの差別化を図ることによる特色のあるまちづくりを推進していきます。

◆仙台大学

仙台大学は、東北・北海道唯一のスポーツ科学をベースとする総合的な体育大学であり、建学の精神である「実学と創意工夫」のもと、スポーツ・フォア・オール（スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に）を基本理念としています。よって総合的な体育大学に相応しい教育・研究のため多彩な教育・研究のための多彩な教員を揃えるとともに、大学が持つ知的資源（研究内容）、人的資源（人材）、物的資源（施設・設備）を積極的に活用し、地域における生涯学習やスポーツへ寄与することは、大切な使命の一つと捉えています。そのために、これまでの初等中等教育支援や地域連携の取り組みを重ねてきており、市町村等との連携協定の可能性を積極的に探っています。

◆日本クリケット協会

日本クリケット協会は、国内の統括団体として、クリケット及びその精神を通じて、健やかで豊かな社会や文化の創造に寄与し、人々をつなぐ架け橋となることを目的としています。2008 年に地域密着型の普及戦略（「クリケットのまち」づくり）を策定したことにより、本格的な普及活動がスタートし、2002 年に約 660 人だった競技人口は、2018 年には約 4,000 人に増加しています。また、体育などの授業に導入する学校も増加しており、年間で約 2 万人の児童・生徒がクリケット活動に参加しています。2018 年には、新たな 5 か年戦略「想像以上の未来へ」をスタートさせ、ジュニア層への普及に加え、初めてでも気軽に楽しめるソーシャルクリケット（簡易版クリケット）によって愛好者の増加を図っています。また、関東地方に注力されていた「クリケットのまち」づくりを、東北、東海、関西の各地方に拡大することを目指しています。

そのような中で、今回東北地域の中心・戦略的立地拠点を亘理町に定め、鳥の海多目的広場を活用した大会や合宿などを開催していく予定です。

○クリケット競技普及活動 PR 動画

協定式やオープニングイベント、クリケット東北リーグなどの様子を映像化し、亶理町の観光 PR も狙いとしたクリケットの競技普及に関する動画を 3 本制作した。昨年末に YouTube（仙台大学公式チャンネル）へ掲載、下記は動画内容の詳細である。

仙台大学- クリケット部-【ここから、始まる】Part 1



▼視聴 URL/QR コード

<https://www.youtube.com/watch?v=20T5TAwJn0c&list=PLRc8czf1QUxDRLtr8BHtWZpR7yxEx406k&index=1>



<仙台大学 × 亶理町 × 日本クリケット協会>

2021 年 07 月 20 日、宮城県亶理町・日本クリケット協会・仙台大学は「クリケット競技によるまちづくりの推進に関する協定」を締結しました。

この動画では、協定締結の様子と、8 月 1 日に開催された亶理町の鳥の海公園多目的広場のグラウンドオープン記念クリケット競技の東北リーグ大会、亶理町民を対象としたクリケット体験会の様子をお伝えします。

仙台大学クリケット部には、女子日本代表が勢ぞろい！

Part 2.（<https://youtu.be/VCSLJZbMQOM>）では 亶理町の美しい自然の中をクリケット部メンバーが駆け抜けます。

Part 3.（https://youtu.be/10BRdS_h3-4）では 仙台大学クリケット部の活動とこれからについてお伝えします。

合わせてご覧ください。

仙台大学- クリケット部- 【亶理町の伝統とともに】 Part 2



▼視聴 URL/QR コード

<https://www.youtube.com/watch?v=VCSLJZbMQOM&list=PLRc8czf1QUxDRLtr8BHtWZpR7yxEx406k&index=2>



<仙台大学 × 亶理町 × 日本クリケット協会>

仙台大学クリケット部のメンバーが、亶理町で着物をリメイクした小物づくりにチャレンジ！
亶理町の美しい海や紅葉の景色、トレーニング風景をお伝えします。

【ロケ地】宮城県 亶理町

0:05 鳥の海海岸

0:12 東北の駅 100 選にも選ばれている亶理駅

0:20 紅葉の美しい称名寺境内。0:24～大きな「シイの木」（国指定天然記念物）が現れます。ご本尊は県指定文化財の木造阿弥陀仏如来像です。

0:25 荒浜漁港公園 釣りデッキ

0:31 佐藤製線スポーツパークわたり（亶理公園）。季節によって美しい花々が鑑賞できるほか、丘陵地の地形を活かした全長 60m のローラー滑り台やアスレティック広場、ちびっ子広場などもあり、幅広い層が楽しめます！

0:48 亶理町の女性たちが着物地のアップサイクルに取り組んでいる「WATALIS」を訪問。思い思いの生地を選んでキーホルダーやブローチづくりに挑戦しました！

1:06 鳥の海公園多目的広場

Part 1. 仙台大学- クリケット部- 【ここから、始まる】（<https://youtu.be/20T5TAwJnOc>）

Part 3. 仙台大学- クリケット部- 【世界へ羽ばたく、未来】（https://youtu.be/10BRdS_h3-4）

仙台大学- クリケット部- 【世界へ羽ばたく、未来】 Part 3



▼視聴 URL/QR コード

https://www.youtube.com/watch?v=10BRdS_h3-4&list=PLRc8czf1QUxDRLtr8BHtWZpR7yxEx406k&index=3



<仙台大学 × 亶理町 × 日本クリケット協会>

仙台大学クリケット部 女子日本代表の鹿野あかりのインタビュー。

”クリケット”というあまりなじみのないスポーツを始めることになったきっかけから、新しいスポーツに挑み、全員女子日本代表となった仙台大学クリケット部の練習風景をお見せします。

Part 1. 仙台大学- クリケット部- 【ここから、始まる】 (<https://youtu.be/20T5TAwJn0c>)

Part 2. 仙台大学- クリケット部- 【亶理町の伝統とともに】 (<https://youtu.be/VCSLJZbMQOM>)

視聴回数について

仙台大学- クリケット部- 【ここから、始まる】 Part 1 … 528 回 (※令和 4 年 3 月 1 日時点)

仙台大学- クリケット部- 【亶理町の伝統とともに】 Part 2 … 303 回 (※令和 4 年 3 月 1 日時点)

仙台大学- クリケット部- 【世界へ羽ばたく、未来】 Part 3 … 252 回 (※令和 4 年 3 月 1 日時点)

今後この動画は、日本クリケット協会とも連携し競技の普及促進に活用していきたい。

また、スポンサーの獲得や、ギフトینگサービスでの事業紹介時に活用し、将来的な収益化の材料として活用していきたいと考えている。

○クリケット体験会 実施報告

令和3年11月14日（日）に、亶理町鳥の海公園多目的広場にて第2回となるクリケット体験会を実施した。主に亶理町民向けに開催し、下記のチラシを亶理町に所在する6つ小学校へ配布し参加者を募った。体験会は講師に日本クリケット協会の宮地氏を招き、ルール説明などを交えながらクリケットの試合で実際に使用するバットや硬球を使って行われた。また、本学クリケット部員も体験会の運営サポートを実施した。

■体験会告知チラシ



■体験会の様子



○第2回 クリケット体験会 アンケート結果の集約

■参加者情報

- ・性別 男性11名 女性7名 無回答1名
- ・年齢 小学生1名 40代6名 50代4名 60代7名 70歳以上1名
(※小学生1名は小学6年生)

- ・今回は…

体験した19名

- ・普段やっている、携わっているスポーツ

ウォーキング	1名
カローリング、テニス	1名
ゴルフ	2名
ソフトボール、サッカー	1名
バレーボール	1名
バレーボール指導	1名
少年野球	1名
卓球	2名
野球	1名
野球、ゴルフ	1名
無回答	7名

■体験会について

- ・体験会でたのしかったこと (※複数回答可)

バッティング (打つ)	18名
ボーリング (投げる)	13名
キャッチング (ボールを捕る)	7名
ランニング (走る)	6名
その他	0名

- ・体験会の満足度

大変満足	4名
普通	3名
満足	12名

- ・次回参加したいもの

硬球の試合	2名
簡易版の試合	8名
今回同様の体験会	8名
審判・指導者・普及員等の講習会	0名

■クリケットについて

・クリケット競技について（※複数回答可）

全く知らなかった	2名
体験会に参加したことがある	10名
名前は聞いたことがある	7名

・クリケット競技で知っていること

英国発祥	3名
世界で2番目に競技人口が多い	2名
グラウンドが楕円形	2名
フェアプレーを重んじる	3名
360度どこに打ってもいい	11名
他に知っていること	0名

・亘理町・仙台大学とクリケット

3者協定締結	13名
クリケット部がある	13名
クリケット部に日本代表選手がいる	10名
その他	0名

■クリケット競技によるまちづくりに期待していることがありましたらお聞かせください。

・大会ができるようになったら面白いと思う。

V. 各事業総括・まとめ

1. 仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム事業の取組みについて

「仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム」事業においては、令和3年10月19日に発足総会を開催し、参画する仙南地域の5つの自治体及び連携する企業等と本学の13団体でそれぞれの立場から意見交換を行った。

(参加団体：柴田町、大河原町、角田市、亘理町、山元町、日本クリケット協会、アイリスオーヤマ株式会社、ソフトバンク株式会社、大塚製薬株式会社仙台支店、ミズノ株式会社東北支社、JAXA 角田宇宙センター、一般社団法人スポーツ・ラボ仙台)

発足総会では仙台大学がこれまで実施してきた乳幼児の運動あそび教室や介護予防運動事業、気仙沼市や郡山市でのICTを活用した部活動支援事業、岩沼市での部活動支援、亘理町と日本クリケット協会との協働でスタートしたクリケット普及活動などを紹介し、行政側からは地域の抱える課題や取り組みについて、また企業側からは各社で持つ課題解決につながるノウハウなどについて情報提供をいただいた。コンソーシアムでは今後も健康・スポーツの普及推進を図るとともに、地域の健康・スポーツ等に関する課題について産学官が協力して解決の方策を検討していくこととしており、仙台大学としては仙南地域に根差す体育・スポーツ系大学として各団体をつなぐ存在として貢献し、地域で学生が学ぶ環境づくりを進めたい。今年度は多くの自治体で抱える令和5年度以降の休日部活動の地域移行問題を踏まえ仙南地域の中学校部活動支援事業を実施し、学生支援員の謝金などは「令和3年度 大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業」から捻出したが、来年度以降についてはコンソーシアムでの取り組みを自走化させていくことを目標に、各団体が連携して地域のスポーツを活性化していくことが課題となる。

2. 中学校部活動支援事業について

全国的に中学校の部活動指導では、教員の中に専門的指導ができる者が少ないことや勤務時間との関係などが課題となっており、宮城県もその例外ではない。競技未経験者である教員が部活動の顧問を務めることは、生徒が専門的な競技種目の指導を受けられないこととなり、生徒の競技力・活動意欲の向上につながらないといった指摘もある。

本学では以前から岩沼市や郡山市・気仙沼市などと部活動支援を行ってきたが、今年度の部活動支援事業はこれらに加えて前述の「仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム」に参加する複数の市町を支援対象とし、各企業の支援も受けながら自治体の財政負担の低減と持続可能な部活動支援システムを構築して管理業者を介さない形の部活動支援の運営モデルを形成することを目標として取り組んだ。

中学校での部活動指導を本学学生が担当することで、将来教員やスポーツ指導者を目指す学生には学校現場指導経験を積む機会やインターンシップ、新たな就職の選択肢を考える機会につながる効果も期待した。中学校の現場で部活動を担う教職員の働き方改革を進めるとともに、部活動に取り組む中学生のスポーツ活動の充実につなげ、スポーツによる地域活性化及び地域貢献に寄与することができる。

当初計画での支援対象は、柴田町立中学校3校（槻木・船岡・船迫）、大河原町立中学校2校（大河原・金ヶ瀬）、亘理町立中学校4校（亘理・逢隈・荒浜・吉田）、山元町立中学校1校（山元）の合計10校としたが、新型コロナウイルスによる影響により、特に後半の派遣回数は削られることとなったにも関わら

ず、前述のアンケートの通り、学生が指導に赴いた各中学校からは一定の評価があった。その多くは、現役学生による「魅せる指導」、すなわち中学生に比較的年齢も近い大学生、同じ競技に取り組む大学生から直接専門的な指導を受けることができ、生徒に部活動参加に対する活力を与えたという評価である。

マイナスの意見として一つには、実施回数の少なさ、そして単発ではなく年間を通し継続した支援を受けたいというものがあった。今年度は新型コロナウイルスによる影響で実施回数が少なくなったが、今後は、中学校側の種目や回数等の要望に対し、派遣できる支援学生をどう育成し派遣調整するかといった学内体制の整備が課題である。またコンソーシアムの項でも触れた学生謝金など運用資金の捻出、さらに回数が増加すれば移動手段の確保も問題となる。移動手段については地域特性上、仙南地域の各中学校への派遣は車での移動が必要で、公共交通機関を利用すると、中学校の部活動開始時刻に間に合わせることは難しくなる。今年度は学校ごとに日程を決め、車1台に対して数種目の学生支援員が乗り合わせる方式で対応したが、各校の異なる実施日程や回数、種目の要望に応えるならば、この点は次年度以降も大きな課題となると考えられる。また、競技の専門的な指導は要望が高い項目でもあるが、学生の競技専門性が高まるほど、選手としてのトレーニングや大会参加などで時間を割くことも難しくなるといった課題も浮き彫りになった。今年度は休日の支援は実施しなかったが、部活動改革の流れに応え休日の「外部指導者」の確保も検討する場合、支援人材は大学生だけではなく地域の潜在的指導者の発掘なども課題となろう。

3. クリケットを活用したまちづくり事業の取組みについて

クリケットは、英国・オーストラリア・インド・南アフリカ・西インド諸島などの英連邦諸国で盛んに行われている、サッカーに次いで世界の競技人口第2位とも評される競技である。特にインド、パキスタン、スリランカ、バングラデシュなどの南アジア諸国では圧倒的な人気を誇り、トップ選手の年収は30億円を超えと言われる。その一方、日本での認知度はまだ低く、大学の所在する宮城県南部では、競技のルールもほとんど知られていない。本学では、クリケット部員女子4名が日本代表に選出されており、以前から日本クリケット協会とともに競技に取り組んできたところである。

このような状況の下、日本クリケット協会では、栃木県佐野市・東京都昭島市などと地域密着型の普及戦略が策定されており、行政・地元企業の支援を受け、スポーツ人口の増加、地域の活性化や国際化などの目標をかかげた「クリケットのまち」づくりが推進されており、東北でのクリケット競技の拠点づくりを検討していた。他方、宮城県亶理町では東日本大震災から10年を迎え、スポーツによる町の活性化を模索していた。

クリケットを活用したまちづくり事業は、このような日本クリケット協会と亶理町のニーズに対して本学がコーディネートする形で、宮城県亶理町・日本クリケット協会・仙台大学との間で「クリケット競技によるまちづくりの推進に関する連携協定」を締結したものである（令和3年7月20日）。その後、鳥の海多目的広場でのオープニングセレモニー及びグラウンドオープン記念試合、町民対象のクリケット体験会を実施した（同年8月1日）。

締結式では各組織との連携内容と役割についても確認され、具体的には、亶理町は本提携を通して、①クリケット競技の大会等の会場の提供等に関する事、②クリケット競技を通じた特色あるまちづくり及び交流人口の拡大及び国際交流に関する事、③クリケット競技の普及促進に関する事、に積極的に協力していくことが確認された。

他方、本学と日本クリケット協会は、本提携を通して ①鳥の海公園多目的広場へのクリケット競技の大会及び合宿等の誘致に関すること、②亘理町が実施する前項に掲げる取組みへの専門的見地からの助言及び選手やスタッフ等への派遣に関すること、③亘理町が実施する前項に掲げる取組みについての国内外のクリケット競技関係団体への情報発信に関すること、④亘理町に対する国内外のクリケット競技についての情報提供に関すること、に積極的に協力していくこととした。

鳥の海公園多目的広場は海沿いに立地し、東日本大震災で被災した公園施設などを集約した全面天然芝の多目的広場として整備されたものである。オープニングセレモニー及びグラウンドオープン記念試合（クリケット東北リーグ大会）、大会後に開催された亘理町のスポーツ推進委員会を中心とした「クリケット体験会」は、三者連携協定後初のイベントであり、記念大会では東北で活動している外国人2チームと本学クリケット部により試合が行われ、オープニングセレモニー参加の関係者は日本クリケット協会事務局長による試合進行やルール等の解説を聞きながら熱心に試合を観戦した。

・クリケット体験会

8月1日、11月14日の2回、クリケット体験会を実施した。

第1回では、亘理町のスポーツ推進委員やオープニングセレモニー関係者を対象とし、参加された方々は、初心者用のクリケット用具を用いて終始楽しくかつ興味深そうに体験を行った。

第2回では、日本クリケット協会普及指導員の宮地氏が指導員となり、前回と同様に本学クリケット部員たちが協力するという形で実施した。1回目に参加した方々からは本物のクリケットのバットやボール、防具を装着して体験がしてみたいという要望が亘理町のスポーツ振興課に寄せられ、第2回もほとんどの方が参加され、簡易用具と本物の用具が大きく異なること、ヘルメットやレッグガードなどの防具を装着して走ることの難しさを実感できたという感想が示された。第2回体験会終了後に実施したアンケート調査では、360度どこに打ってもいいことなど野球とも違うルール、新しい競技に対する関心が寄せられ、スポーツ推進委員の方々からは「自分たち委員がクリケットを普及する役割を担うことを想定した場合、まだまだ体験が不十分でルールの把握や技術的な留意点などを理解しなければならぬ。ぜひ体験会を継続して開催してもらいたい。」といった前向きなご意見をいただいた。

第2回の体験会開催に際しては、小学4年生以上の児童を対象に1000枚の募集チラシを亘理町内の6つの小学校へ配布した。告知が遅かったこともあるが、小学生の参加は少年野球チームに所属している小学校6年生の女子児童1名となり、クリケットに関する地域住民の認知度は8月のオープニング記念イベント後3か月ほど経過していたが依然低いことが示された。一方、参加した小学生児童は野球のバットより大きく重いバットに振り回されながらも、特にバッティングには大きな関心を寄せ、当初付き添いで来た保護者も一緒に参加し親子で楽しんだ様子であった。児童からは学校の仲間がもっと参加していればより楽しかったという話もあり、より小学生などに競技人口の裾野を広げるためには、体験会を企画するだけでなく、各小学校に本学クリケット部員や協会関係の指導員が出向き、教諭や児童に競技を直接体験する機会をつくるなど、クリケットの認知を広めていく戦略が求められる。

4. まとめ

本学は体育大学という特性上、専門的な指導ができる指導者とその指導の下で学んでいる学生たちという人的資源を始めとして、多くのスポーツ資源を有している。それらの資源を地域スポーツの活性化のために活用し、いかに地域に貢献できるかということが本事業のテーマである。地方の小規模自治体が抱える課題には共通するものが多く、その解決に向けて産学官で検討する組織として、今回の「仙南地域におけるスポーツ活性化支援コンソーシアム」の設立は有意義であった。今後これを土俵として具体的な議論を進めていきたい。

中学校の部活動支援事業についても着手することができたが、受け入れる中学校の体制、本学の学内体制ともに未完成であり、まだ評価の段階には至っていない。これまで本学が取り組んできた岩沼市、気仙沼市、郡山市での部活動支援事業を振り返って見てみると、中学校側の積極性の度合いによって効果に差が出てきているように思われる。部活動改革の必要性は感じつつも、外部の者が学校教育に参画することへの抵抗感や煩わしさなどの中学校現場サイドの意識面での改革と、本学の支援体制の整備が当面解決すべき課題である。

「クリケット競技を活用したまちづくり」についても、やっとスタートラインに立った段階である。まず、クリケットを町の人々に知ってもらう取組みが必要であり、亘理町、日本クリケット協会と協働して進めていかなければならない。短期的な成果を求めることは困難であるが、世界的には人気のあるスポーツであるという点でその可能性は大きいと考え、ポストコロナを見据えた国際交流も視野に入れながら、まずは地元の皆さんに競技を体験し、楽しんでもらう機会を作っていくことが必要である。

以上、今年度の3事業の取組みについては、新型コロナウイルスの影響により当初予定した計画通りには行かなかったが、本支援事業の目的である大学スポーツの潜在力（人材輩出・経済活性化・地域貢献等）を地域で活かす可能性は大きいことが実証されたと考える。しかし、もうひとつの目的である

『それらの取組を収益事業化・自走化することで大学の財政基盤の安定化を図る』という観点からは、今年度で実績を上げることは困難であった。今後、今年度着手した事業を継続していく中で、大学の持つ資源や潜在力について、行政側や企業、そして地域住民に理解を深めてもらい、大学としての「地域貢献」という枠を越えて、一種の「ソーシャルビジネス」として事業化・自走化することを長期的な目標として取り組んでいきたい。

令和3年度
大学のスポーツ資源を活用した地域活性化拠点形成
・大学スポーツアドミニストレーター配置支援事業
成果報告書

令和4年3月

仙台大学

〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南二丁目2番18号



**SENDAI
UNIVERSITY**